

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1950480010
法人名	医療法人 景雲会
事業所名	グループホーム アゼリア
所在地	〒 409-1302 山梨県甲州市勝沼町菱山中平4300 電話番号 0553-44-5311

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年11月6日	評価確定日	平成20年12月10日

【情報提供票より】平成20年10月15日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日						
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人				
職員数	17人	常勤	16人	非常勤	1人	常勤換算	16.25人

(2) 建物概要

建物構造	(本館)鉄骨 造り
	4 階建ての 0 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷金	■有(105,000) □無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	■有(100,000) □無 有りの場合 償却の有無 □有 ■無			
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 780 円			

(4) 利用者の概要 平成20年10月15日 現在

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	4 名	要介護2	9 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	甲州市立勝沼病院 春日居リハビリテーション病院 近藤歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年11月17日

正面には「ぶどうの丘」が、眼下には盆地の街並みが広がる、見晴らしの良い自然豊かな環境のもとに、事業所は位置している。また「勝沼ぶどう郷」駅に程近く、駅前のお花の管理、水やりなど、利用者は地域住民と一緒に活動し、途切れることなく、地域との交流を深めている。同敷地内には、介護老人施設と2ユニットのグループホームがあり、全職員は「品良く、明るく、やさしい介護」をモットーに、日々質の高いサービスを提供している。職員の言葉かけや介助は、利用者の穏やかな笑顔を多く見ることが出来る。日常的に来訪する人も多く、地域に開かれた事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 終末期に向けた方針の共有について、管理者は他の事業所の事例集を参考にし、職員、関係者と話し合いを行っている。医療や夜勤の職員数の問題等があり、検討中である。なお、改善課題について、文書として残されることが望まれる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義をよく理解し、全職員で取り組み、話し合いをして、管理者がまとめている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 10名の構成メンバーで、2か月に1度、開催されている。地域における活動日程や参加要項、グループホームの事業計画、及び事業報告等の内容について、意見交換を行っている。会議で得た意見、情報はサービスの向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時に、利用者の暮らしぶりや金銭管理等の報告をし、また電話などで密にコミュニケーションを図っている。重要事項説明書に、苦情受付先を明示してあり、運営に反映させている。事業所の会報「勝沼ナーシングだより」は、送付しているが、グループホーム独自のホーム便りなど作ることが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の運動会や交通安全運動などに積極的に参加をしている。また、駅前のお花の水やり等、地域住民と一緒に活動をし、地域とのつながりを大切にしている。事業所は、日頃から、来訪する人も多く、途切れることなく、地域との連携を図っている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームアゼリア

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者、一人ひとりの能力に応じた介護を、常に目指し、「品よく、明るく、やさしい介護」を理念として掲げている。また、地域交流を大切に、その人らしく暮らせるように、事業所が一丸となってサービスに当たっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員と理念について、日々の会話の中においても、常に問いかけ、共有の取り組みをしている。また、職員採用時にも、必ず理念を伝えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の運動会や、警察の交通安全運動などに参加をしている。畑作業をしている地域の人と、話をしたり、「勝沼ぶどう郷」駅前にあるお花の水やりなど、地域住民と一緒に活動をし、地域の一員として交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は、よく理解しており、自己評価については、全職員で取り組み、検討し、管理者が作成している。評価の結果においては、掲示をし、いつでも、誰でも見ることが出来る。しかし、改善をした事について、文書として残されていない。	○	改善課題の結果について、取り組み状況等を、文書として残されることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	10名のメンバーで2か月に一度、開催されている。地域における活動日程、参加要項や事業報告、ノロウィルス対策についてなど、意見交換を行っている。会議で得た情報は、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議は、市担当者の都合に合わせて、開催していることから、常に情報やアドバイスを頂き、運営に関する細かい事にも、相談に乗って頂いている。会議以外にも、市担当者は、事業所に来訪する機会も多く、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	事業所の会報「勝沼ナーシングだより」の中に、グループホームの行事内容を掲載し、月に1回、家族に送付している。また、家族の面会時に、利用者の暮らしぶり、金銭管理の報告をしているが、グループホーム独自のホーム便りはない。	○	面会時、家族への報告は密にしているが、グループホーム独自の便りや、利用者個々の様子など、手紙として、家族に時々でも、送付する取り組みを望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に、苦情受付先を明示しており、過去に寄せられた苦情については、直ちに職員に対応を促し、家族が来訪した時など、意見要望を聞き出す努力をしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者は、3か月前に届けを提出する事とし、新任職員と重複期間を設け、利用者のダメージを最小限に抑える配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修、老健の認知症講習等の参加をし、1か月に2回の内部研修があり、後、必ず伝達講習をしている。職員希望の研修については、管理者は、勤務ローテーションの配慮をし、研修を受ける機会の確保に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、同業者との交流の中で、相互訪問し、情報交換をし合い、サービスの向上につなげている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族と利用者は、事業所を見学し、二泊三日の体験利用(利用者実費)をしてから、安心してサービスを受けられるようにしている。職員は、自宅へ訪問して、利用者の環境を把握し、後のケアに活かしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者から、あいさつのマナーや、糸が絡まった時など、根気よく解くことを教えて頂いたりして、多くの事を学び、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、家族、本人から生活歴などを聞き、日々のかかわりの中で、利用者の希望や意向を把握して、思いを受けようとしている。自分から思いを伝えることができない利用者は、職員が「お願い」する形で行動を促すように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意見を聞き、カンファレンスで全職員と話し合い、一人ひとりの介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期、短期の介護目標を立て、3か月毎に見直しを行う。変化があった時は、その都度、週に一度の小カンファレンスで見直しを行う。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設老健と合同で運動会、文化祭を実施している。美容院や馴染みの場所など、家族が行けない時は、職員が対応している。地元の「組」のお付き合いも、参加できるようにサポートしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は、原則として家族が対応することになっているが、無理な方は、ホームで通院支援している。かかりつけ医、提携医とは、相談できる関係はできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は、他の事業所の事例集を参考に、職員と話し合いをしている。医療職員数の問題などにより、現在の段階では、重度化により医療が必要になった場合は、他の施設や医療機関に移って頂く事としている。本人、家族の了解は得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の状態に応じて、プライドを傷つけることなく、プライバシーに配慮をしながら、言葉かけや対応に留意した支援がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるものの、利用者一人ひとりのペースを大切に、散歩に行ったり、新聞を読んだり、その人らしい暮らしの支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は、共に台所に立ち、食事の支度や配膳をしている。味付けの話しなど、さりげない言葉かけをしながら、一緒にテーブルで食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴となっているが、利用者の要望により、いつでも入浴できる支援をしている。また、併設老健において、大浴場に月数回、入浴することを楽しみとしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、一人ひとりの生活歴をよく把握しており、活け花、料理、掃除、草取り、手芸など、得意の分野を発揮できるように支援している。また、花見など年間を通して、折々の楽しみ事も計画されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に、併設施設を歩き来したり、ホーム周辺の畑を散歩している。食料等の買い物は、車にて利用者と一緒に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーが設置しており、職員の見守りのもと、日中は鍵をかけないケアをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、併設施設と合同で、消防署立ち合いのもと、夜間想定、出火場所想定で避難訓練を行っている。職員は、事業所内で、救急救命法を消防署の立ち合いのもと、順番で受講をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、職員が立て、食事摂取量、水分量など、一人ひとりのバイタルチェックがされている。栄養バランスは、併設の老健の管理栄養士がチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広々としてリビングには、利用者の描いた絵手紙がさりげなく飾られ、季節の鉢植え、新聞、雑誌、手作りのカレンダーなどが置かれている。自由に出入りできるデッキがあり、柔らかい光で居心地の良い工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	その人らしい、思い出の品や、家族の写真、使い慣れた家具などが持ち込まれ、清潔な各居室になっている。		